

メールマガジンアーカイブ

2009/2/5 井上さん、ついに投資家になる！！(6)

[メルマガアーカイブTOPに戻る](#)[リスクマネジメントラボラトリーのHPへ](#)


すぐにできる！ Vol.19
忙しいドクターのための資産運用

～ 井上さん、ついに投資家になる！！(6)～

こんにちは、リスクマネジメント・ラボラトリー 代表の中澤です。

このシリーズでは積立投資についてRML社のスタッフの例を対談形式でお伝えしたいと思います。

36歳女性・RML社IT戦略室の井上が、将来の為に資産運用をどうすればよいか？（まったくの素人）相談を始めました。。。


[前回のコラム「井上さん、ついに投資家になる！！\(5\)」バックナンバーへリンク](#)

井上さんの投資の現状(2008年12月末)

	累計投資額	現在の評価額	評価損益	評価損益率
2008年6月末	2,100,000	1,853,005	-246,995	-11.76%
2008年9月末	2,400,000	1,789,743	-610,257	-25.42%
2008年12月末	2,700,000	1,699,959	-1,000,041	-37.04%

毎月の積立	1,000,000	2007年9月から毎月10万円。累計投資月数16ヶ月。
2008年2月	500,000	毎月積立している4種類のファンドを追加購入。
2008年4月	600,000	数年で解約する可能性もある資金なので海外債券ファンドを購入。

- 後日 -

井上 ずいぶん下がりましたね。

中澤 この3ヶ月も大幅な下落でした。9月末と12月末の株価を比べてみると、日経平均は11,160 7,849と約30%弱の下落、NYダウ平均も10,850 8,776と約20%弱の下落、為替も1ドル103円 87円と15%強の円高ととても厳しい状況でした。日経平均株価は10月28日にはイラク戦争直前のいわゆるバブル崩壊後の安値を更新しました。



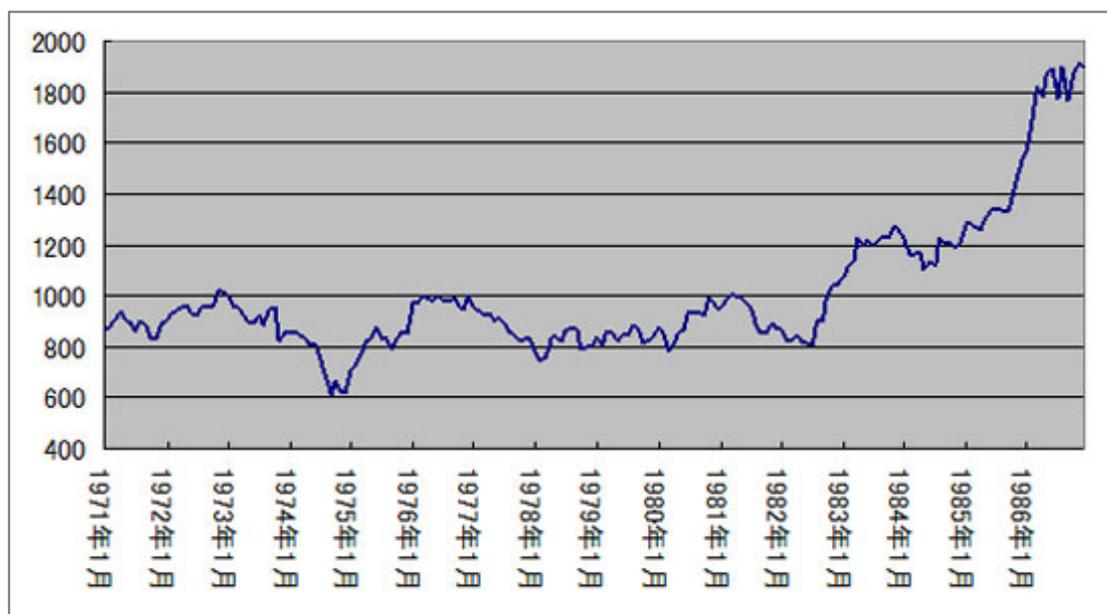
井上 私の場合は20年以上と長期投資なので今すぐに使うわけではないのですが、このまま続けていて大丈夫ですか？

中澤 下の表はMSCIワールドという先進国23カ国の株価指数の下落率を表したものです。株式市場は過去にも大きな下落局面が何度となくありましたがその都度時間をかけながら回復してきました。ちなみに1日で20%も値下がりしたブラックマンデーのときの下落前のNYダウ平均株価は約2,200ドルでした。

1973?74年	オイルショック	-41%
1980?82年	世界的な景気後退	-19%
1987年	ブラックマンデー	-20%
1993年	メキシコ通貨危機	-13%
2000?2003年	ITバブル崩壊。当時多発テロ、イラク戦争懸念。	-47%
2007年?	サブプライムローン。金融危機。	

井上 今のNYダウは8,700ドルだからブラックマンデー直前に買っていたとしても4倍くらいになっているということですね。

中澤 下の図はオイルショックの時のNYダウの推移です。72年12月に1,020ドルの高値をつけましたが、74年9月には607ドルまで約40%も値下がりしました。その後数年間に渡り800ドルと1,000ドルを行ったり来たりで、70年代の終わりには一流の経済誌が『株式の死』という特集を組んだくらいです。



井上 大体35年くらい前のことですよ。約1,000ドルだとすると9倍弱ですね。でも何で株価は上がるんですか？ 今回の金融危機は100年に一度とも言われてますし、世界を代表する企業が人員削減などのリストラをしています。景気もどんどん悪くなると言われてます。それでも大丈夫なのでしょうか？

中澤 株式の仕組みをよく理解していれば分かることなのですが、実はそんなに難しいことはありません。企業は株式という形で資金を投資家から集め、そのお金を使って事業をします。株式を持つことでこの事業(会社)の一部を所有することとこの事業から上がってくる利益の一部を受取ることができます。ところで企業が人員削減等のリストラをするのは何故だと思いますか？

井上 経費を減らすためですよ。

中澤 そうです。経費を減らすのは、何とか事業を継続させることで将来の利益や雇用を生み出すためです。確かに派遣契約を更新されなかった方や解雇された方は気の毒なのですが、別の見方をすれば『まだ事業を投げていない、あきらめていない』、と見ることもできます。中にはあきらめてしまう企業もあるでしょうし、力及ばず事業の継続ができなくなる企業もあるでしょうが、多くの企業が何とかこの場をしのぎ次のチャンスに向けて動いているのではないのでしょうか。



井上 確かにそうですね。個人レベルでも不況のときは色々工夫しますね。

中澤 企業もまったく同じです。個々の企業がどのような環境でも工夫をしたり努力をすること、それから事業を起こすには資金が必要でそれを他人から借りてくるといった仕組みがなくなる、という2つの条件が変わらなるとすれば、今後も全体として株価が上がるだろうと想定できるのです。

投資信託を利用して世界中に分散投資をすることはこの仕組みそのものに投資をしているということなのです。

井上 なるほど。そうすると企業がそれなりの成果をだすには相応の時間がかかることもありますよね。

中澤 その通りです。ですから時間をかけることができる資金で投資をする必要があるわけです。

井上 分かっている毎日悪いニュースを聞いたり、一日で何百円も値下がりしたニュースを聞くと不安になりますよね。

中澤 確かに大切な自分のお金が減っていくのを見るのは不安になりますよね。
アメリカの著名投資家であるウォーレン・バフェットは現在のように乱高下する市場に対して次のように述べています。
『短期的に(株式市場が)どうなるか、1カ月あるいは1年後の株価についてはわからないが株を買い入れるルールは単純だ。他の人が強欲になっている時に恐れ、皆が恐れを抱いている時に欲を出すことだ。』

	20%	10%	50%	20%	100%	100%
	日本大型 株ファンド [※]	日本小型 株ファンド [※]	海外株 式ファンド [※]	アジア株式 ファンド [※]	ポートフォリオの 推移	国際分散 型バランス ファンド [※]
2007年9月	200,000	100,000	500,000	200,000	1,000,000	1,000,000
2007年12月	182,545	90,123	481,786	190,686	945,141	954,015
2008年3月	150,988	68,768	380,832	137,950	738,538	819,982
2008年6月	164,223	71,114	396,005	136,826	768,168	849,220
2008年9月	136,177	55,008	319,970	99,284	610,439	735,883
2008年12月	107,526	43,439	215,248	68,995	435,209	595,302

上記表は、2007年9月末に上記配分で100万円の投資を開始したとして、その後の基準月末の各ファンドの基準価額等および投資ポートフォリオの推移を表したもので当コラムを理解するための手助けを目的として作成をしています。月次の積立や追加の購入は反映しておりません。

【投資信託の手数料について】

- ・保有にかかわる信託報酬については控除後です。
- ・購入時手数料については考慮していません。
- ・分配金が出た場合は非課税で再投資をするものとします。

以上のような理由によりコラムの内容および実際の投資成果とは異なります。データについては信頼できるものを利用しておりますが正確性を保証するものではありません。

上記表は株式市場の変動やその推移が実際の商品や資産形成に与える影響を擬似的に体験するためのもので、この表をもって特定の商品を推奨するものではありません。また、採用している投資信託は元本を保証するものではありませんので解約時期によっては元本割れをする場合があります。このコラムは2009年1月14日に行われた面談をもとに書かれています。

コラムでは株式のみのポートフォリオを採用しているため、参考までに債券が含まれた国際分散型バランスファンドのデータも併記しています。

国際分散型バランスファンドの基本資産配分

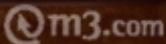
- 日本大型株式：23%
- 日本小型株式：10%
- 米国株式：15%
- 欧州株式：13%
- アジア太平洋株式：4%
- 日本債券：17%
- 海外債券：18%

投資についての疑問、質問等はずはお気軽にメールにてご相談ください。メールにて対応させていただきます。

 積立投資について、相談したい

是非、コンシェルジュにご相談ください！

[▲ PAGE TOP](#)

 m3.com

Copyright 2013 RML.All Rights Reserved.